松阪市における製材工場調査報告書

～『活力ある産業　林業の振興』に向けて～

松阪市　林業支援センター

目　　次

第１　はじめに
１　調査の背景・目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　調査の実施方法及びスケジュール
（１）　調査方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
（２）　スケジュール　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

第２　調査結果
１　調査対象工場数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

２　廃業が続く製材工場　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３　原木消費量
（１）工場規模別の原木消費量　・・・・・・・・・・・・・・・５
（２）樹種別原木消費量　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

４　原木購入先　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

５　原木の産地　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

６　製品販売量　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

７　製品の品目及び販売先　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

８　流通の形態　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

松阪市製材工場等の生産状況調査票　・・・・・・・・・・・・・２１

第１　はじめに

１．調査の背景・目的

松阪市においては、「木材需要の拡大と販路の開拓」を目指し、平成 29 年 4 月、松阪市笹川町に林業支援センターを開設した。

櫛田川流域は、吉野地方の影響をうけ古くから集約・密植型の林業が発達し、飯高林業地に代表されるように全国でも屈指の優良な木材の生産地を築いてきた。

一方で松阪市は、多くの製材工場が集積し、その製材品は全国各地に出荷されるとともに、現在に至っても市内の製品市場には全国から買い方が参集するなど、当市の林業・木材産業は基幹産業として長きに亘って本地域を支え続けてきた歴史がある。

また、平成 13 年 4 月には全国初となる木材総合流通加工基地「ウッドピア松阪」が操業を開始し、多くの注目を集めてきている。

しかしながら、我が国、屈指の木材集散地及び製材品の生産地として活況してきた当市の木材産業は、今では長期化する木材価格の下落に加え、住宅着工戸数の減少や外国産材との競合、さらに住宅様式の変化等、様々な環境変化による木材需要の減少により、特に製材業はこれまで経験したことのない極めて厳しい経営の状況下に陥ってきている。

このような中、当支援センターとしては、「川上におけるサスティナブルな林業経営・原木の安定供給体制の構築」 を視野に入れながら、木材需要の拡大及び製品の販路の開拓を目指し、開設直後からこれらの方策について鋭意検討を進めてきたところであるが、「製材工場」に関するデータや情報はこれまでほとんど集積されていない状況である。

そこで、まず減少を続ける製材工場の要因や、現在の生産状況及び複雑な製品の流れを把握する必要性に鑑み、もって支援策を検討するために必要な製材工場の現状について調査を行い、分析したので本冊に取りまとめたものである。

２　調査方法及びスケジュール

（１）調査方法

① 調査の内容は、**表-7**（P．23）のシートにより、

設問内容　① 原木消費量と樹種

② 購入先の形態と産地内訳

③ 製品販売量と品目別数量

④ 製品販売先

に区分し、これら内容の内訳は比率に留めるなど、出来るだけ簡潔に記載できるよう配慮した。

② 調査対象は、「三重県木材業者・製材業者名簿」（三重県木材協同組合連合会）により、松阪市内の全製材工場に返信用切手及び封筒を同封し郵送した。（調査対象範囲は、後述２－１に記載。）

③ 調査の対象期間は平成 28 年度の取扱量及び生産量である。

（２）スケジュール

調査シートは、5 月 11 日に発送。回答期日を 5 月 26 日と設定し回答を得た工場から逐次面談（継続中）を行い、回答内容について詳細の聞き取りを行い、その後、 とりまとめと解析を行った。

第２　調査結果

１　調査対象工場数

調査対象工場は全 54 工場でこの内、回答が得られた工場を規模階層別に見ると**表－1**のとおり 48 工場で、未回答は 6 工場（いずれも 1,000 ㎥以下と推察）であった。回答率は 89 パーセント。

なお、対象とした範囲は、松阪市に本社を置く多気町地内の 1 工場、及び松阪市大石町に隣接する旧勢和村地内に移転した 3 工場（飯南町在住）を含んでいる。

表－1　　年間原木消費量別回答件数

規　模	本庁	飯南町	飯高町	嬉野	三雲	旧勢和	計
～1,000 ㎥	12	8	1	2	1	3	27
1,000 ㎥～5,000 ㎥	10	2	2	3	0	0	17
5,000 ㎥～	2	2	0	0	0	0	4
計	24	12	3	5	1	3	48

※規模は年間原木消費量で調査結果により区分。 以下、本区分ごとに分析を行っている。

２　廃業が続く製材工場

本県の製材工場数は、過去木材価格が最高値を呈した昭和 55 年には 841 工場が稼働し、このうち松阪市（現在の区域）においては 28 パーセントにあたる 234 工場が稼働していた。〔 **図-2** 〕

その後、大きく漸減傾向を示し平成 28 年には全県で、226 工場〔 **図-2** 〕（対昭和 55 年 26 パーセント、松阪市では 53 工場（同 23 パーセント）まで激減している。　〔 **図-1** 〕

市内の推移を 5 年間ごとに分析すると、特に本庁（旧松阪市内）の平成 5 年から平成 10 年にかけての 15 工場減で対前期 86 パーセント、旧飯南町の平成元年から平成 5 年にかけての 15 工場減で同 79 パーセント、さらに同町、平成 20 年から平成 25 年にかけての 15 工場減で同 55 パーセント、旧飯高町の平成 10 年から平成 15 年までの 13 工場減で同 19 パーセントなど、著しく減少した期間が見受けられた。〔 **表-2** 〕

廃業の理由としては、75kw 以下の小規模工場が太宗を占める中で、高齢化、後継者が存在しなかったことのほか、これらの工場が生産する化粧性（役物）の需要の減少に加え、外部要因的には全国的な動きとして大型工場の台頭による製品価格の競合によるものと思われる。

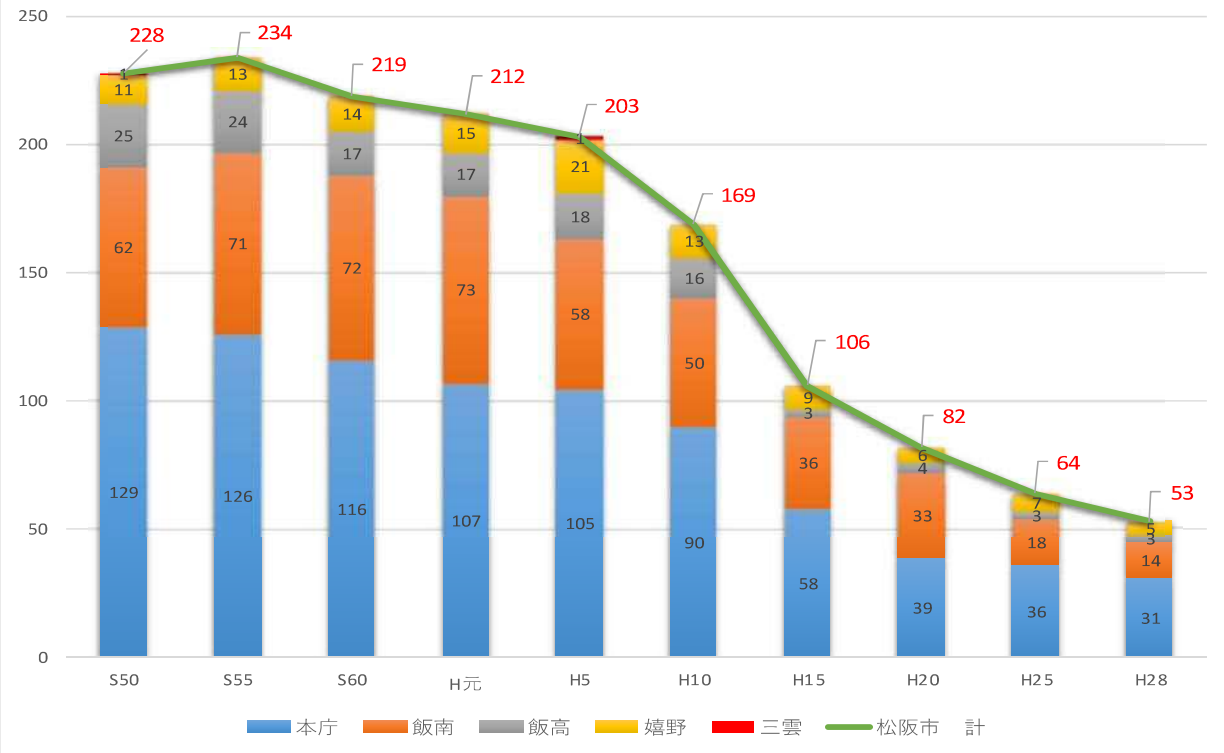
また、外材を取り扱う工場においても、欧州材半製品の台頭や北洋材丸太輸出税の引き上げ等による高騰の影響でその工場数は全国的にも激減しており、市内の工場も例外ではない。

※ 注）製材工場規模は小規模の 75kw 以下、75～300kw、300kw 以上が大規模と出力層で区分される。

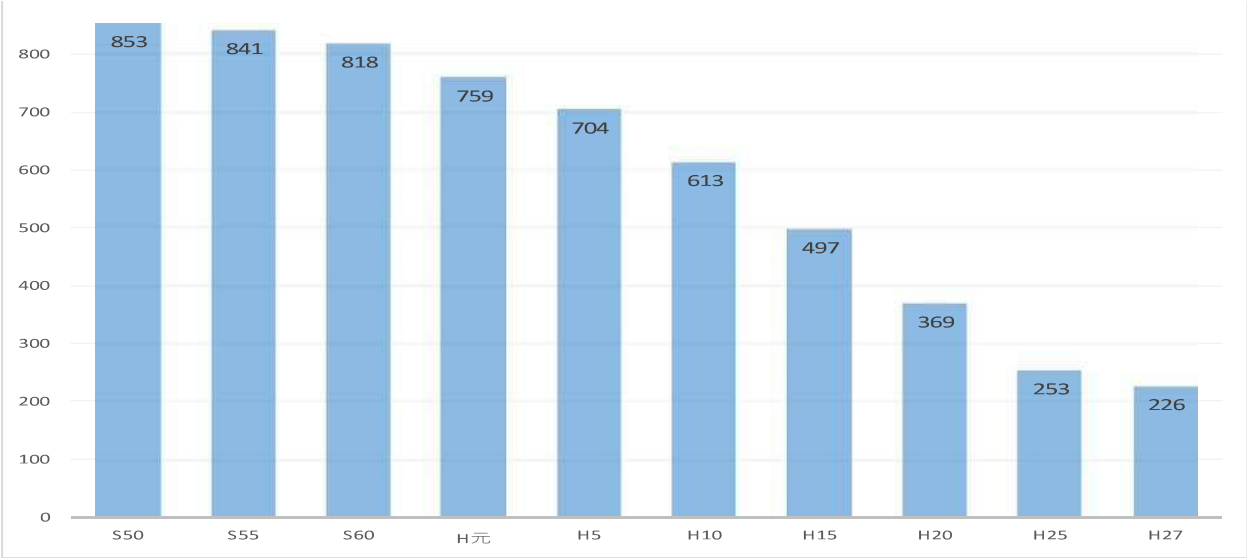
表－２　　松阪市・三重県の製材工場数　　単位：件

	本庁	飯南	飯高	嬉野	三雲	松阪市　計	三重県　計
S50	129	62	25	11	1	228	853
S55	126	71	24	13		234	841
S60	116	72	17	14		219	818
H元	107	73	17	15		212	759
H5	105	58	18	21	1	203	704
H10	90	50	16	13		169	613
H15	58	36	3	9		106	497
H20	39	33	4	6		82	369
H25	36	18	3	7		64	253
H28	31	14	3	5		53	226

図－１　　松阪市製材工場数　　単位：件



図－２　　三重県製材工場数　　単位：件



３　原木消費量

（１）工場規模別の原木消費量

本調査結果を分析するにあたっては、年間原木消費量を 1,000 ㎥以下、1,000 ㎥～5,000 ㎥及び 5,000 ㎥以上の 3 階層に区分を行っている。

工場数の比率は、**表-3** に示すように 1,000 ㎥以下の工場が過半数を占めており、48 工場全体の年間原木消費量は、全体で 102,836 ㎥で、これを階層規模別に見ると **表-3** のようにそれぞれ、11.2 パーセント、35.1 パーセント、53.7 パーセントが示すように、1,000 ㎥以上の工場の消費量が 89 パーセントを占める。

しかしながら、聞き取り調査では 1,000 ㎥以下の工場の多くは、元玉（A材）を消費し、製材していることが判明した。

素材生産量の増大を進める中、A材の需要は大きな課題であり、これら小規模工場の稼働は川上側の林業経営にとっても貴重な存在となっている。

表－３　　製材工場の規模別原木消費量

市内調査対象製材工場数		回答有製材工場数	原木消費量		
			0㎥～1,000㎥	1,001㎥～5,000㎥	5,001㎥～20,000㎥
57	（件）	48	27	17	4
	（%）	100	56	35	9
原木消費量	（m3）	102,836	11,555	36,061	55,220
原木の消費量比率	（%）	100	11.2	35.1	53.7
1工場当たり平均	（m3）	2,142	428	2,121	13,805

（２）樹種別原木消費量

製材に用いる樹種は、スギ・ヒノキが 102,266 ㎥で製材工場全体の 99.4 パーセントを占める。その他は外材等で 570 ㎥となっている。

このうち、ヒノキ 66,867 ㎥で全体の 64 パーセント、スギ 35,399 ㎥で、34 パーセントとなっており、この割合は規模階層別に見ても、微差であり、当地の製材は、ヒノキがスギを大きく上回っていることが言える。

これを**図－3** 以下に示した。

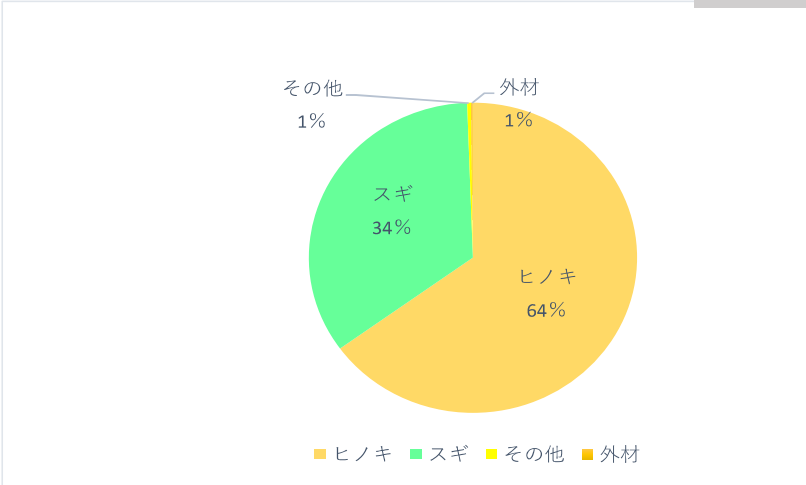
図― ３

◇ 内訳

樹種別原木消費量

ヒノキ	スギ	その他	外材	合計
66,867	35,399	370	200	102,836

【製材規模】
48 工場全体



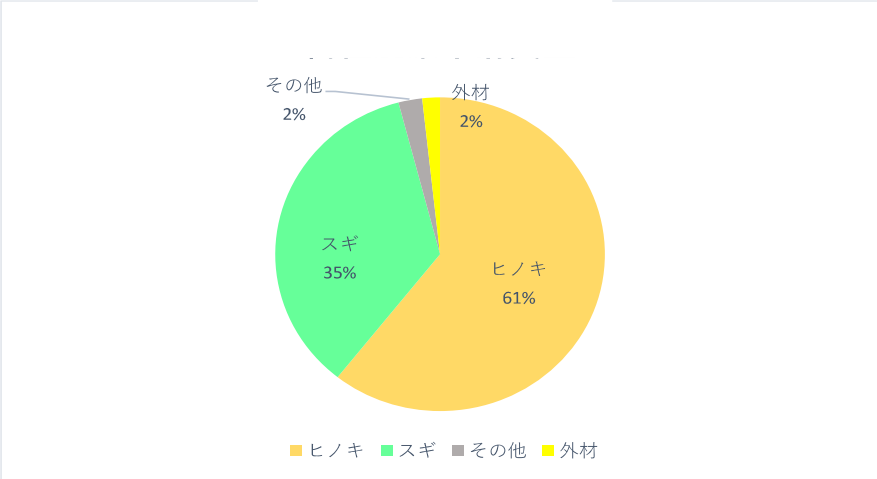
図― ４

◇ 内訳

樹種別原木消費量

ヒノキ	スギ	その他	外材	合計
7,011	4,074	270	200	11,555

【製材規模】
年間原木消費量 0～1, 000 ㎥



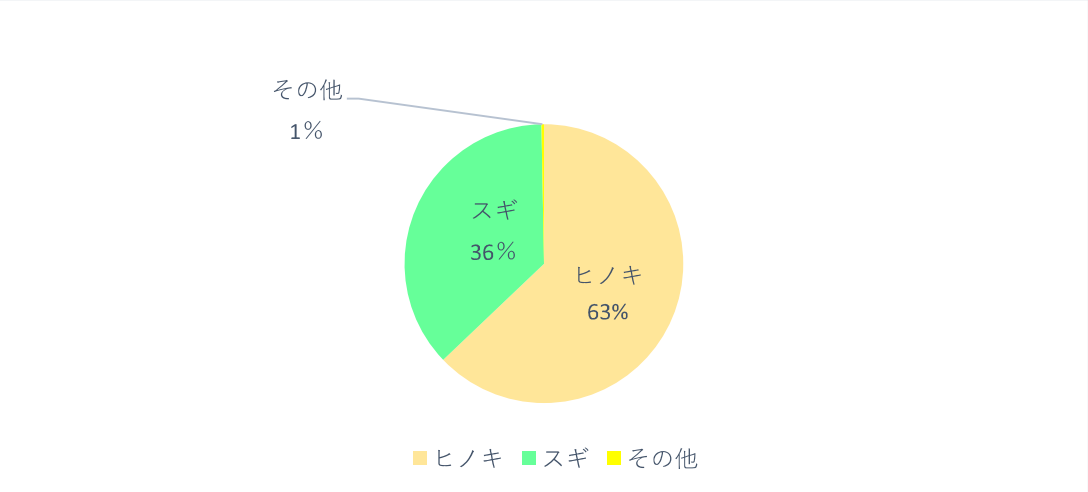
図— 5

樹種別原木消費量

◇ 内訳

【製材規模】
年間原木消費量 1,000～5,000 ㎥

ヒノキ	スギ	その他	合計
22,666	13,295	100	36,061



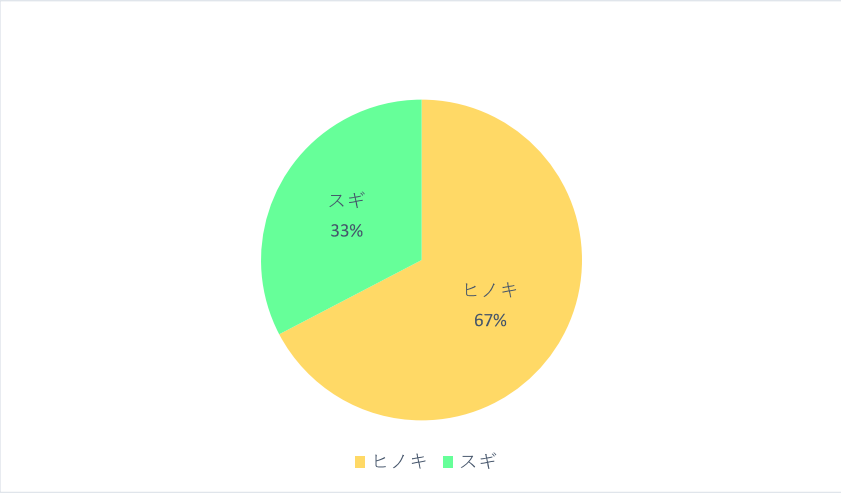
図— 6

樹種別原木消費量

◇ 内訳

【製材規模】
年間原木消費量 5,000～20,000 ㎥

ヒノキ	スギ	合計
37,190	18,030	55,220



4　原木購入先

前項の原木消費に伴う購入先について、調査では購入先の趣として、原木市場、素材性産業、森林組合系統に区分したが、原木市場には県外の市場が含まれており、そのシェアは 2 割程度と推察している。

図－7のように、全体では原木市場が 60 パーセントを占めているが、規模階層別に見ると 5,000 ㎥以下の工場はこれの 8 割弱を占め、5,000 ㎥以上の工場は、43 パーセントとなっている。これは購入ロットが大きいため、購入先が分散傾向に

あると思われる。

なお、県外の県森連での購入は、岐阜、静岡のいわいるシステム販売による購入である。

販売内訳と数量を**図－7**以下に示すとともに、その産地を**下段グラフ**に表した。

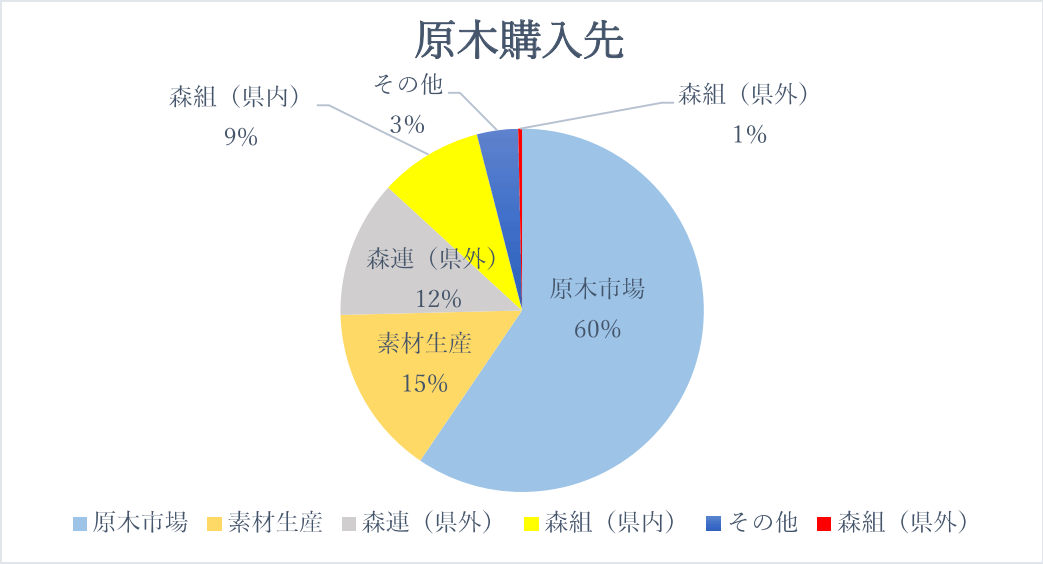
図— 7

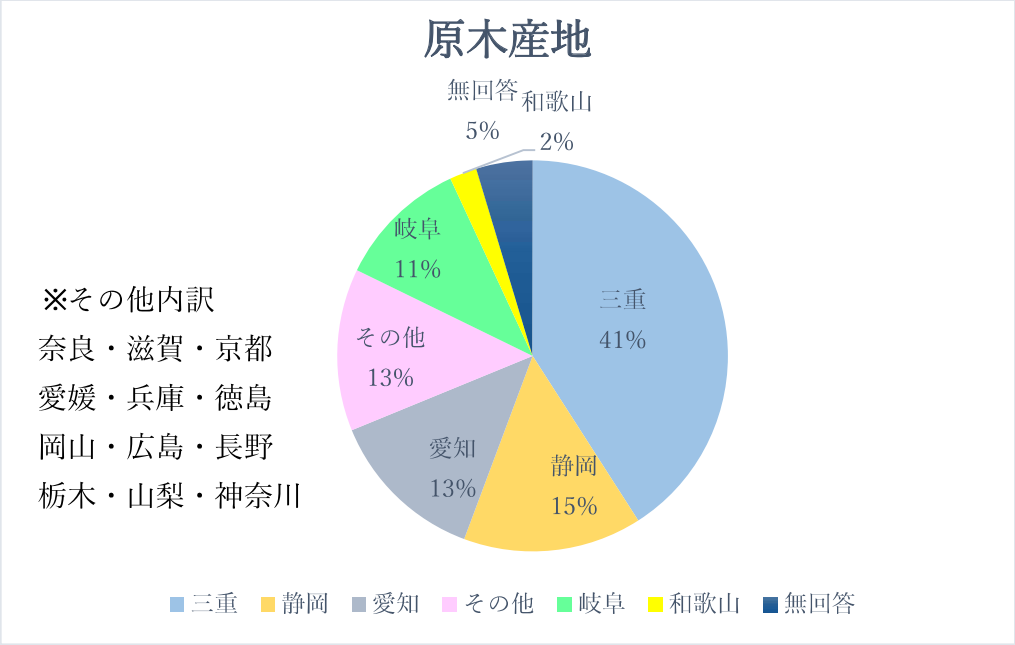
◇ 原木購入先内訳

原木購入先・産地

【製材規模】
48 工場全体

原木市場	素材生産	森連(県外)	森組(県内)	その他	森組(県外)	合計
64,258	16,297	13,199	9,911	3,952	380	107,997





※その他内訳
奈良・滋賀・京都
愛媛・兵庫・徳島
岡山・広島・長野
栃木・山梨・神奈川

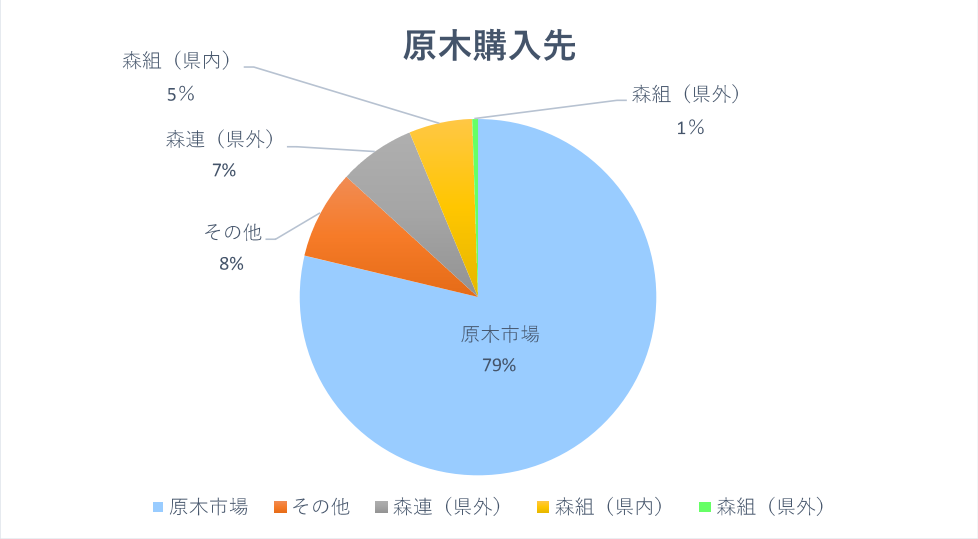
図— 8

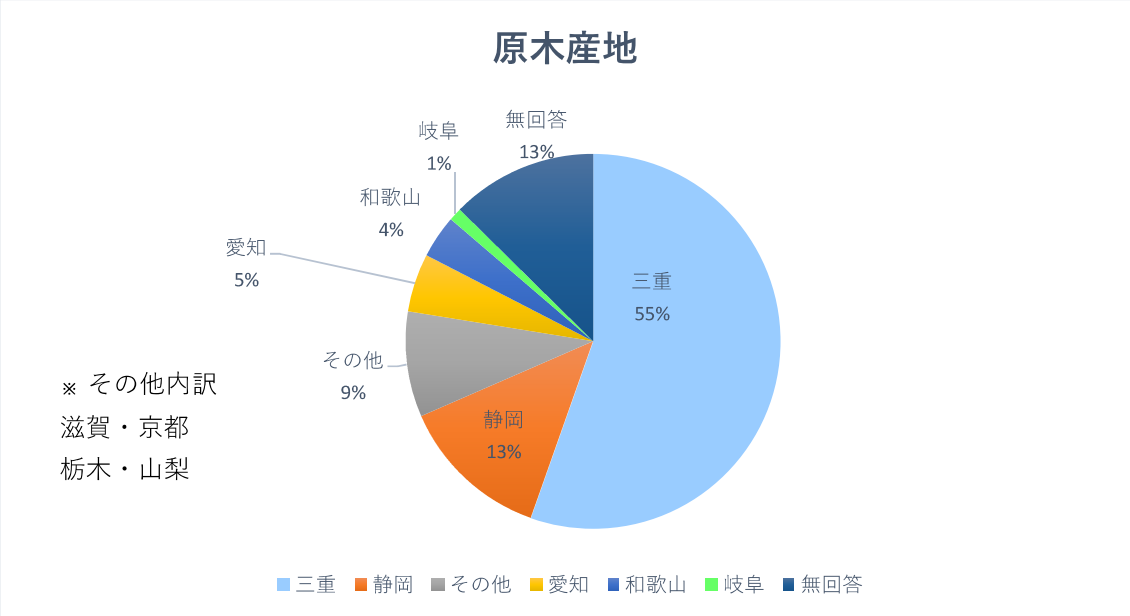
原木購入先・産地

【製材規模】
年間原木消費量 0～1,000 ㎥

◇ 原木購入先内訳

原木市場	その他	森連(県外)	森組(県内)	森組(県外)	合計
9,067	928	800	661	60	11,516





※ その他内訳
滋賀・京都
栃木・山梨

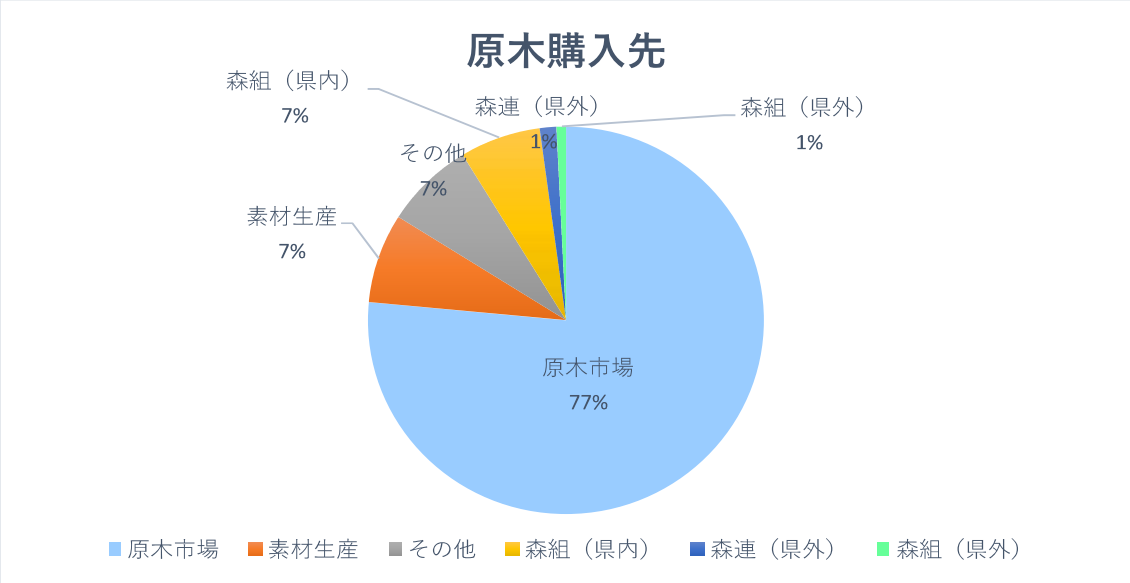
図― ９

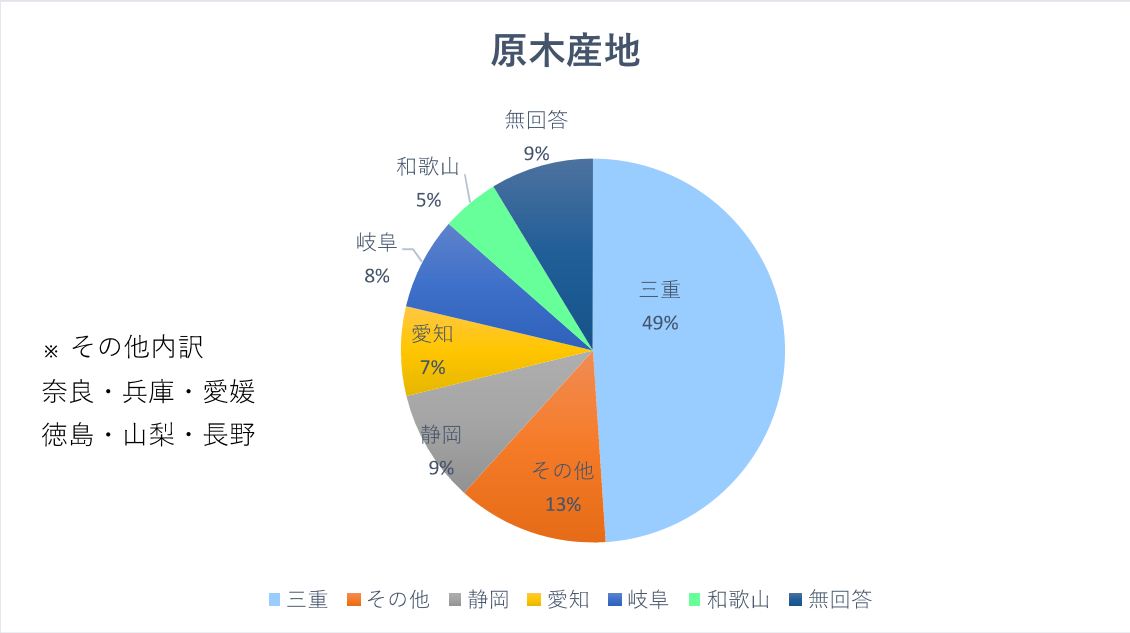
原木購入先・産地

【製材規模】
年間原木消費量 1,000～5,000 ㎥

◇ 原木購入先内訳

原木市場	素材生産	その他	森組(県内)	森連(県外)	森組(県外)	合計
31,559	3,075	3,024	2,724	559	320	41,261





※ その他内訳
奈良・兵庫・愛媛
徳島・山梨・長野

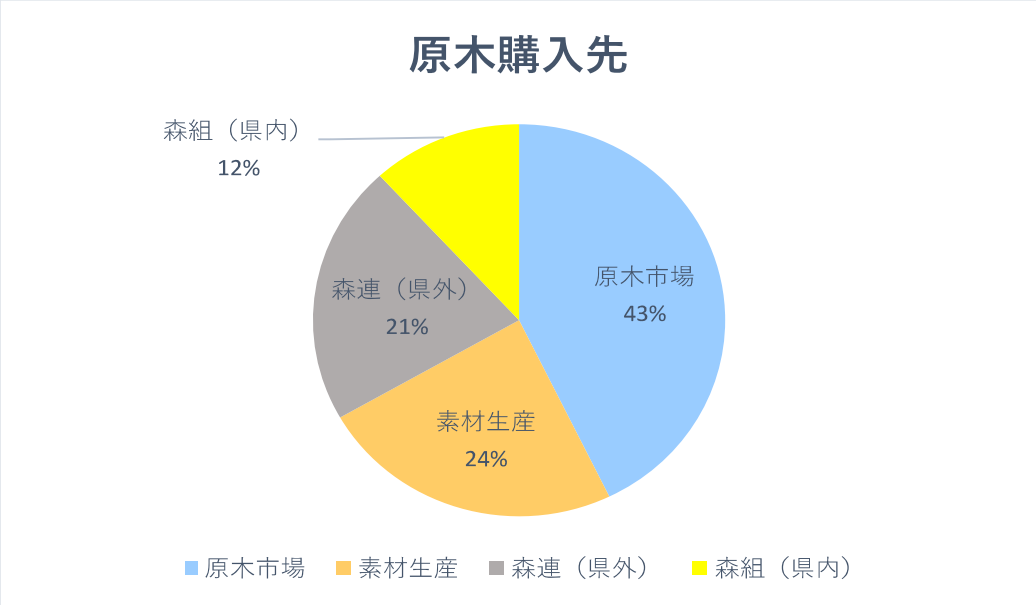
図― １０

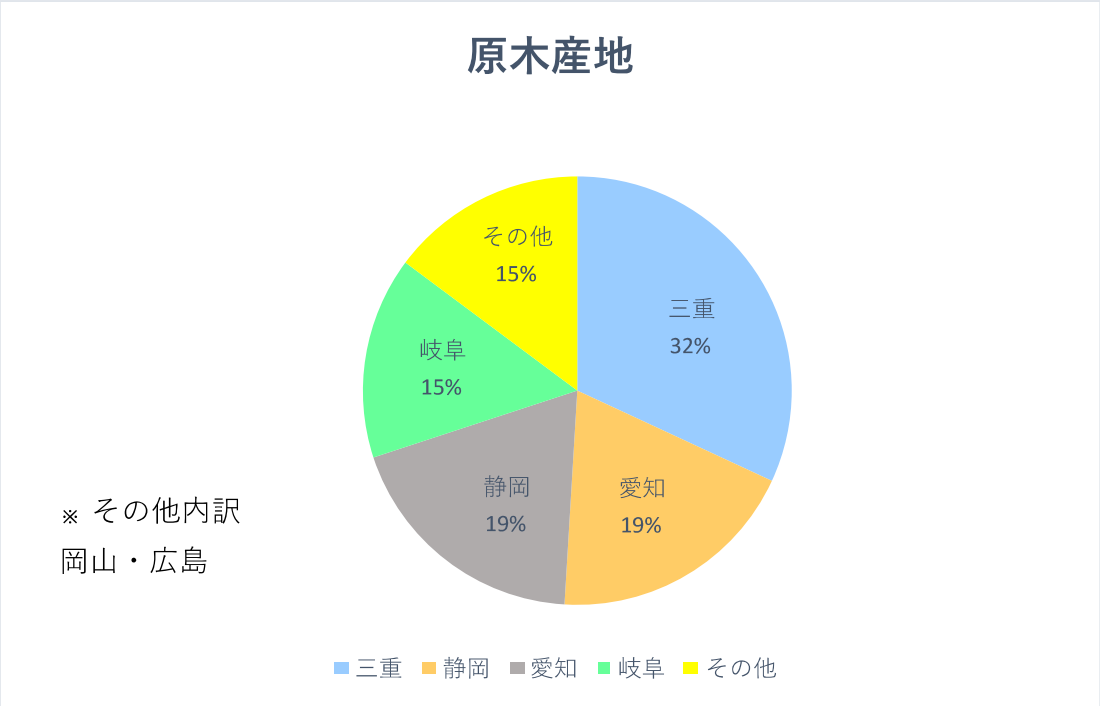
原木購入先・産地

【製材規模】
年間原木消費量 5,000～20,000 ㎥

◇ 原木購入先内訳

原木市場	素材生産	森連（県外）	森組（県内）	合計
23,632	13,222	11,840	6,526	55,220





※ その他内訳
岡山・広島

５　原木の産地

原木購入の産地は、**図-7から図-10** 以下の各図の下段に示したように、全体では三重県産が4割を占めるが、これを規模階層別に分けて見ると 1,000 ㎥以下の工場で 55 パーセント、1,000～5,000 ㎥の工場では 49 パーセントと大差はないものの、5,000 ㎥以上の工場は 32 パーセントに留まっている。

この 5,000 ㎥以上の工場は、三重県産を除いては、愛知、静岡、岐阜、その他府県とほぼバランスが保たれた割合となっている。これは、ロット確保のための動きであるが、一方でアリクイ材を敬遠していることも聴き取りで判明している。

また、5,000 ㎥以下の工場の三重県産以外に占める府県は、愛知、静岡、岐阜の近県以外から9～13 パーセント程度購入しているなど、三重県産以外の産地は分散している。

- 1,000 ㎥以下の工場の原木消費量は、前述のとおり27 工場全体で 11,555 ㎥であるが、うち三重県産は**表-4**のとおり 6,380 ㎥(55 パーセント、但し、無回答分は除く）となっている。 これら聞き取りの結果、その大多数はA材・元玉で、購入先は、殆どが地元ウッドピアの原木市場である。
- このことは今後、川上における木材の安定供給体制を構築していくうえにおいて、主要事項として現状認識するべき背景と言える。

表― 4

◇ 原木産地

【製材規模】
年間原木消費量 0～1,000 ㎥

三重	静岡	m3	愛知	和歌山	岐阜	無回答	合計
6,380	1,504	1,047	579	426	129	1,451	11,516

〔 図－7 ～ 図－10 参照 〕

６　製品販売量

48 工場の製品販売量は**表-5** のとおり全体で 61,347 ㎥であった。これは、原木消費量の 60.0 パーセントに相当。

この中で、1,000～5,000 ㎥の工場（27 工場）と 5,000 ㎥以上の工場（17 工場）で、工場数は異なるものの、製品販売量はそれぞれ 25,530 ㎥及び 28,800 ㎥で概ね差がなかった。

全体の内訳を構造材・造作材・その他（筋交い間柱等及び垂木胴縁等の小割材）に 3 区分して見ると、構造材 28,603 ㎥で 46.6 パーセント、造作材 12,212 ㎥で 19.9 パーセント、その他 20,532 ㎥で 33.5 パーセントとなっている。

さらに、これを規模階層別に見ると、1,000 ㎥以下の工場では、7,047 ㎥のうち、その他が 1,652 ㎥で 23.4 パーセントを占め、1,000～5,000 ㎥の工場では、25,500

㎥のうち構造材が 14,819 ㎥で 58.1 を占める一方、5,000 ㎥以上の工場では、28,800 ㎥のうちその他が 13,300 ㎥, 46.2 パーセントを占めているように 3 階層三様の結果が見られた。

また、販売量の 3 区分の割合を規模階層別に当てはめてみると、**表-6**のようにまず構造材では、1,000～5,000 ㎥以上の工場が 51.9 パーセントと最も多く、造作材でも 41.8 パーセントと同規模が圧倒し、その他では 5,000 ㎥以上の工場が 64.8 パーセントを占めることなどの結果が判明したところである。

このようなことから、注視すべき傾向としては、① 構造材にあっては 1,000 ㎥以下の工場のシェアは 6.2 パーセントに留まっていること。② 造作材にあっては、1,000 ㎥以下の工場と 1,000 ㎥～5,000 ㎥で 71.4 パーセントを占めていること。
③ その他は 5,000 ㎥以上の工場が 64.8 パーセントを占めていることである。

表-5 及び表-6をグラフに表すと**図-11** 以下のとおりである。

表― 5

◇ 製品販売量　規模階層別の品目比率　　**単位：㎥/%**

	規　模	計	比率	構造材	比率	造作材	比率	その他	比率
	全　体	61,347	100	28,603	46.6	12,212	19.9	20,532	33.5
内	～1,000m3	7,047	100	1,784	25.3	3,611	51.2	1,652	23.4
	1,001～5,000m3	25,500	100	14,819	58.1	5,101	20.0	5,580	21.9
訳	5,000～	28,800	100	12,000	41.7	3,500	12.2	13,300	46.2

表― 6

◇ 製品販売量　品目別の階層別シェア　　**単位：㎥/%**

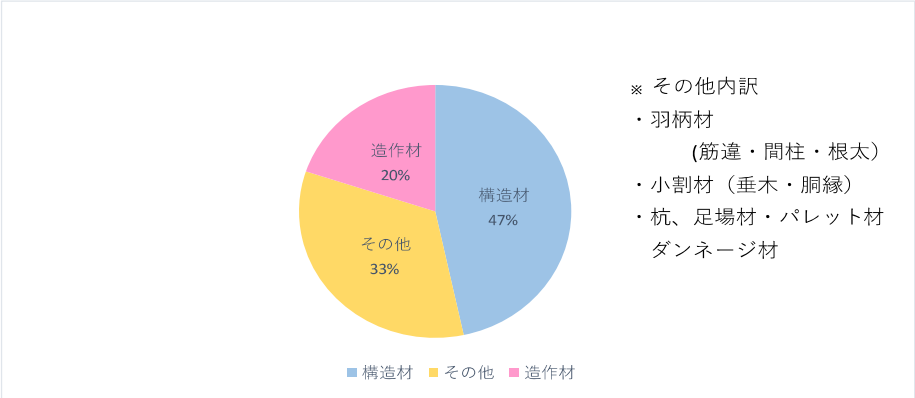
	規　模	計	シェア	構造材	シェア	造作材	シェア	その他	シェア
	全　体	61,347	100	28,603	100	12,212	100	20,532	100
内	～1,000m3	7,047	11.5	1,784	6.2	3,611	29.6	1,652	8.0
	1,001～5,000m3	25,500	41.6	14,819	51.8	5,101	41.8	5,580	27.2
訳	5,000～	28,800	46.9	12,000	42.0	3,500	28.7	13,300	64.8

製品販売量

図― １１
◇ 内訳

構造材	その他	造作材	合計
28,603	20,532	12,212	61,347

【製材規模】
48 工場全体

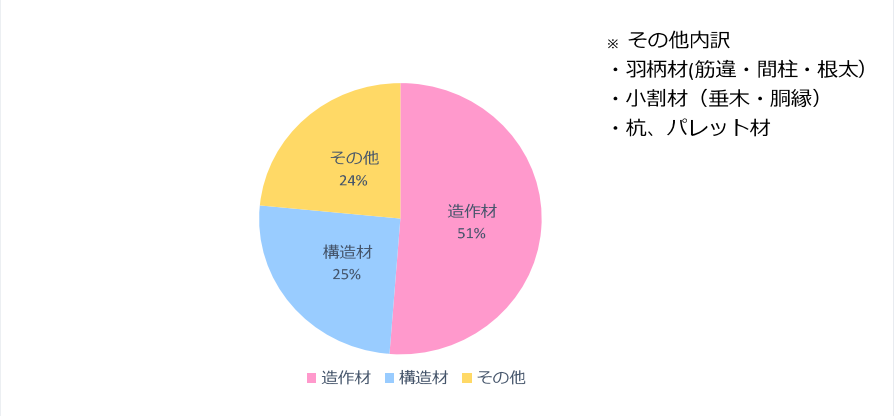


製品販売量

図― １２
◇ 内訳

造作材	構造材	その他	合計
3,611	1,784	1,652	7,047

【製材規模】
年間原木消費量 0～1,000 ㎥

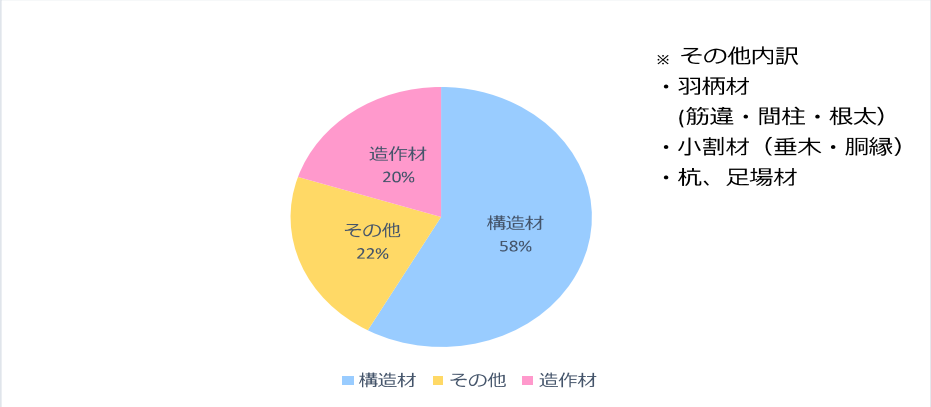


製品販売量

図― １３
◇ 製品販売量

構造材	その他	造作材	合計
14,819	5,580	5,101	25,500

【製材規模】
年間原木消費量 1,000～5,000 ㎥

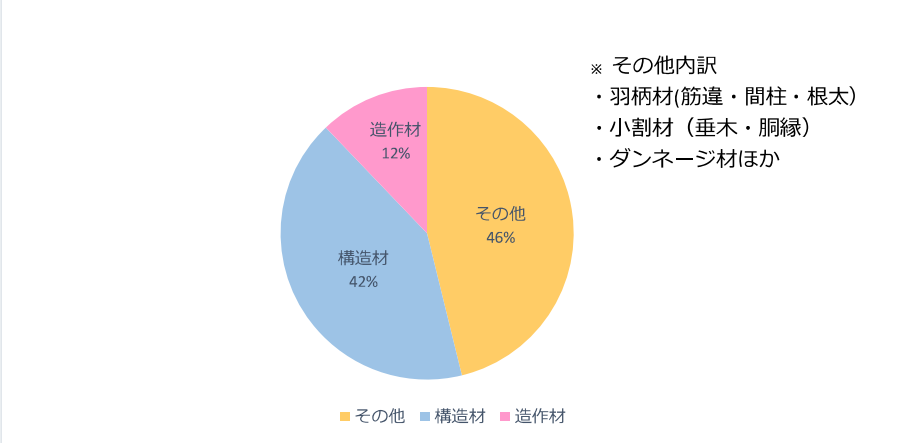


製品販売量

図― １４
◇ 内訳

その他	構造材	造作材	合計
13,300	12,000	3,500	28,800

【製材規模】
年間原木消費量 5,000～20,000 ㎥



7　製品の品目及び販売先

製品の品目及び販売先について、図-15 以下に示す。

品目は、前述の販売量で概ね示してきたので分析は割愛し、その販売先は次のとおりであった。

最も多い製品市場への出荷は、全体では 46 パーセントであるが、県内・県外の割合は半数でほぼ同数である。また、1,000 ㎥以下の工場及び 1,000～5,000 ㎥の工場では、それぞれ 66 パーセント、62 パーセントとほぼ同じ割合で、そのうち県外市場への出荷は 25 パーセントと同数である。

他方、5,000 ㎥以上の販売先で占めるのは製品市場も含めた注文先が 34 パーセントを占め、製品市場への出荷は県内・県外合わせて 27 パーセントに留まっているが、大手ビルダー及び関連のプレカット工場への出荷も見受けられる。

なお、聞き取りによると注文先の多くは、直接小売りからの注文があるが製品市場からの注文も過半数を占めるとのことであった。

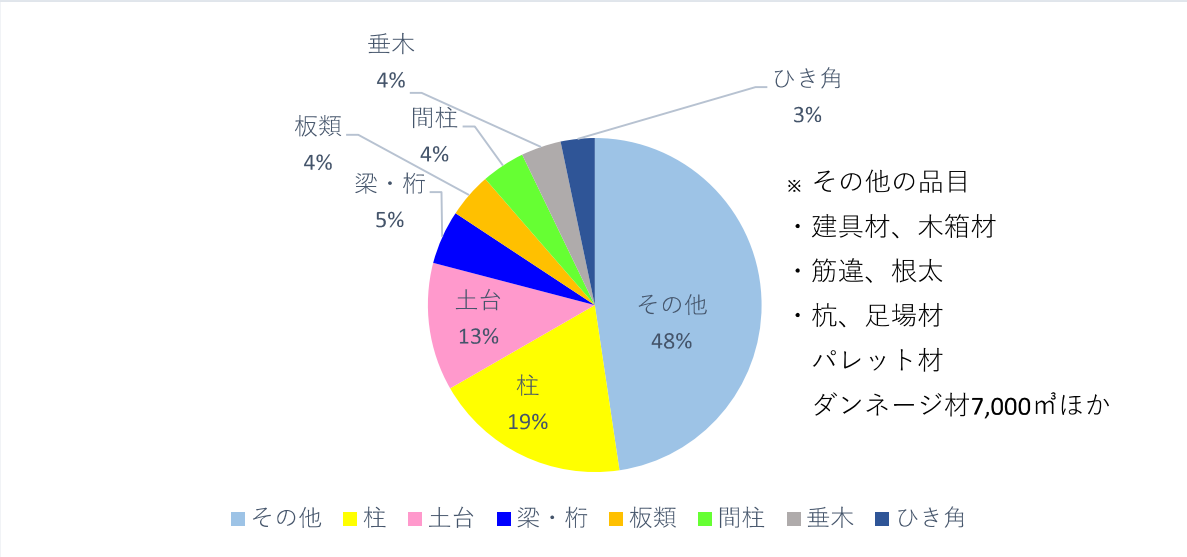
図— １５

製品の品目

【製材規模】
48 工場全体

◇ 内訳

その他	柱	土台	梁･桁	板類	間柱	垂木	ひき角	合計
29,231	11,669	7,607	3,198	2,666	2,589	2,380	2,007	61,347

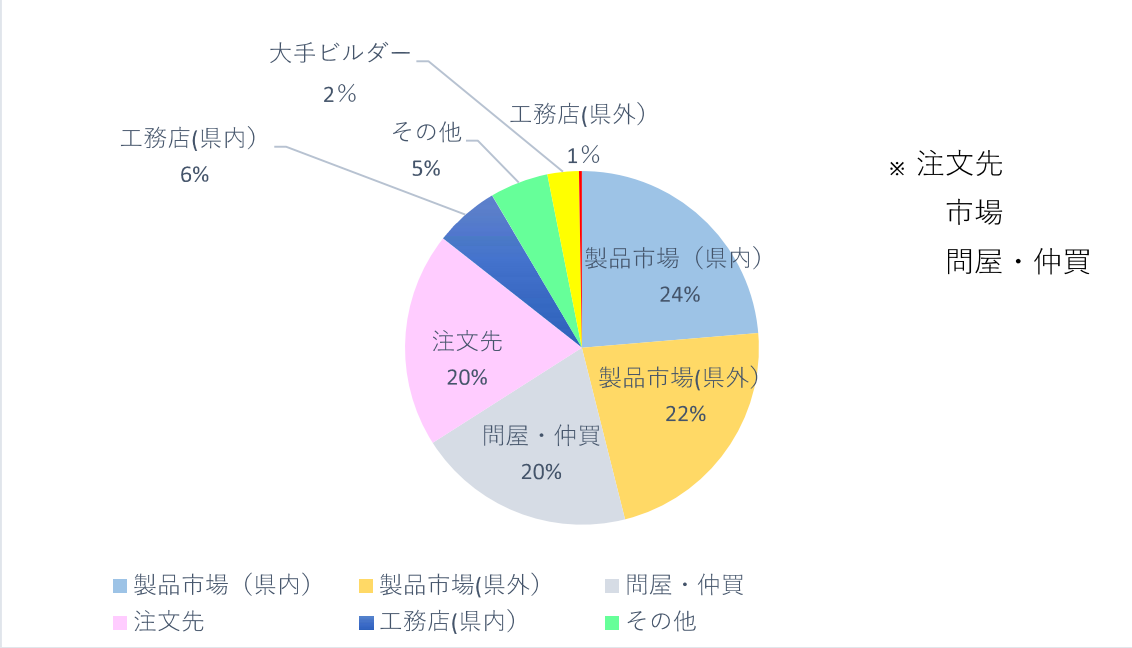


製品の販売先

【製材規模】
48 工場全体

◇ 内訳

製品市場(県内)	製品市場(県外)	問屋･仲買	注文先	工務店(県内)	その他	大手ビルダー	工務店(県外)	合計
13,637	12,918	11,472	11,312	3,402	3,082	1,655	157	57,635



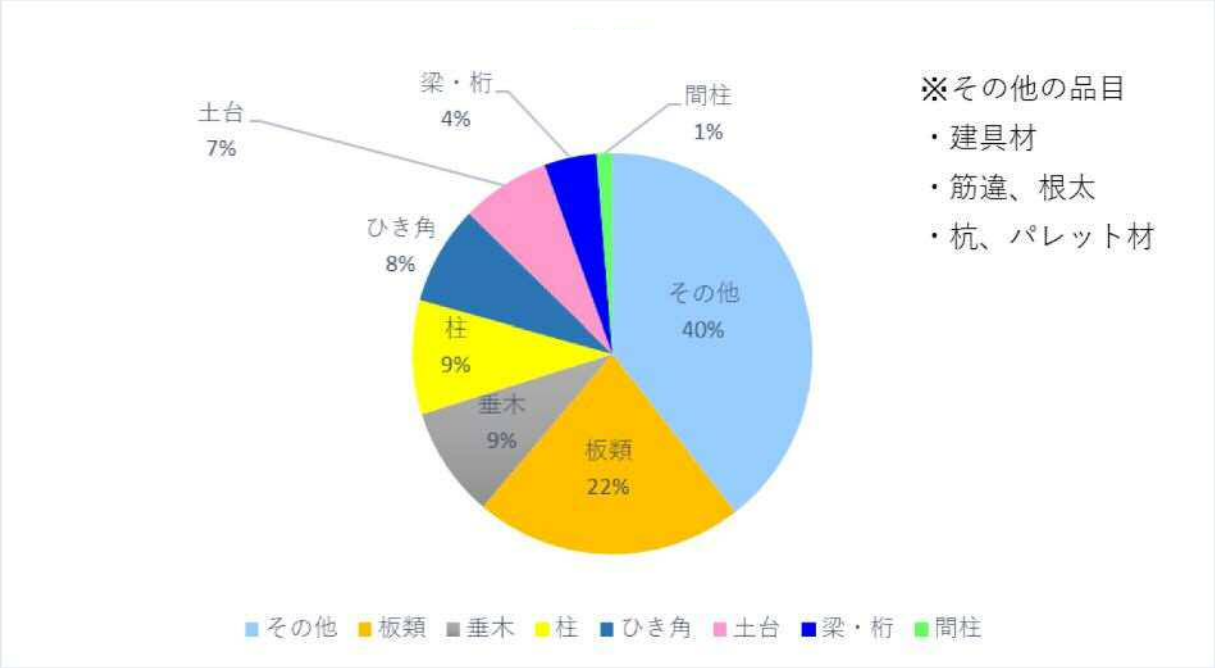
図— １６

製品の品目

【製材規模】
年間原木消費量 0～1,000 ㎥

◇ 内訳

その他	板類	垂木	柱	ひき角	土台	梁･桁	間柱	合計
2,781	1,532	630	645	564	507	298	90	7,047

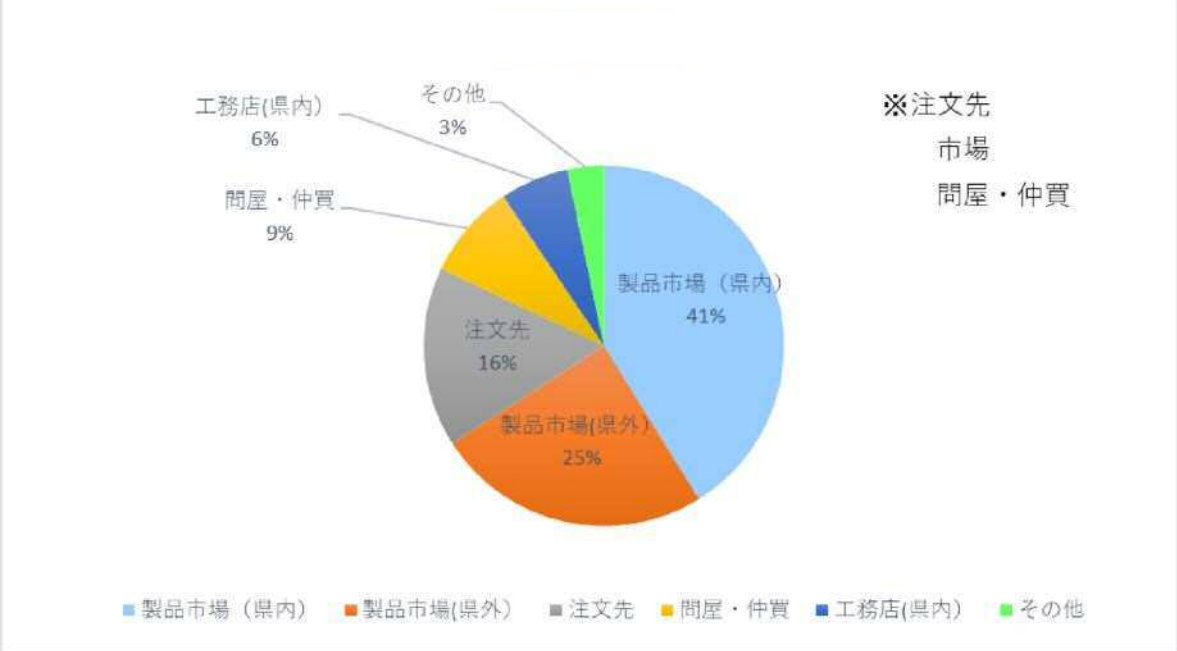


製品の販売先

【製材規模】
年間原木消費量 0～1,000 ㎥

◇ 内訳

製品市場(県内)	製品市場(県外)	注文先	問屋･仲買	工務店(県内)	その他	合計
2,743	1,649	1,080	566	410	218	6,666



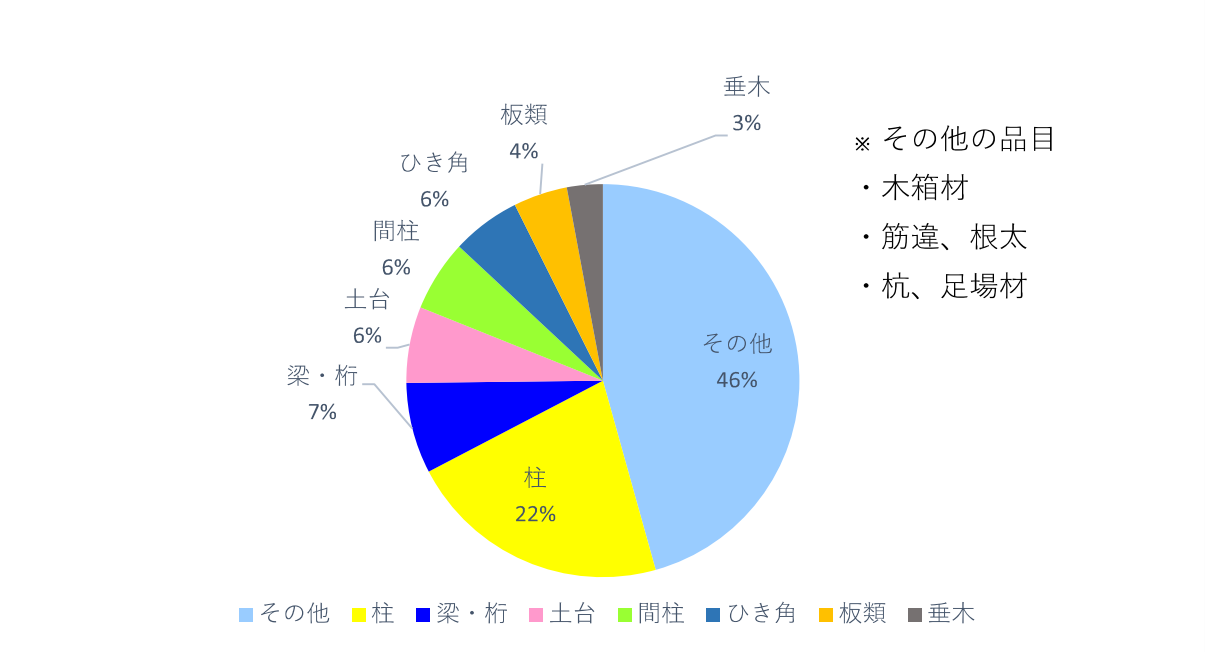
図― １７

製品の品目

【製材規模】
年間原木消費量 1,000～5,000 ㎥

◇ 内訳

その他	柱	梁･桁	土台	間柱	ひき角	板類	垂木	合計
11,650	5,524	1,900	1,600	1,499	1,443	1,134	750	25,500

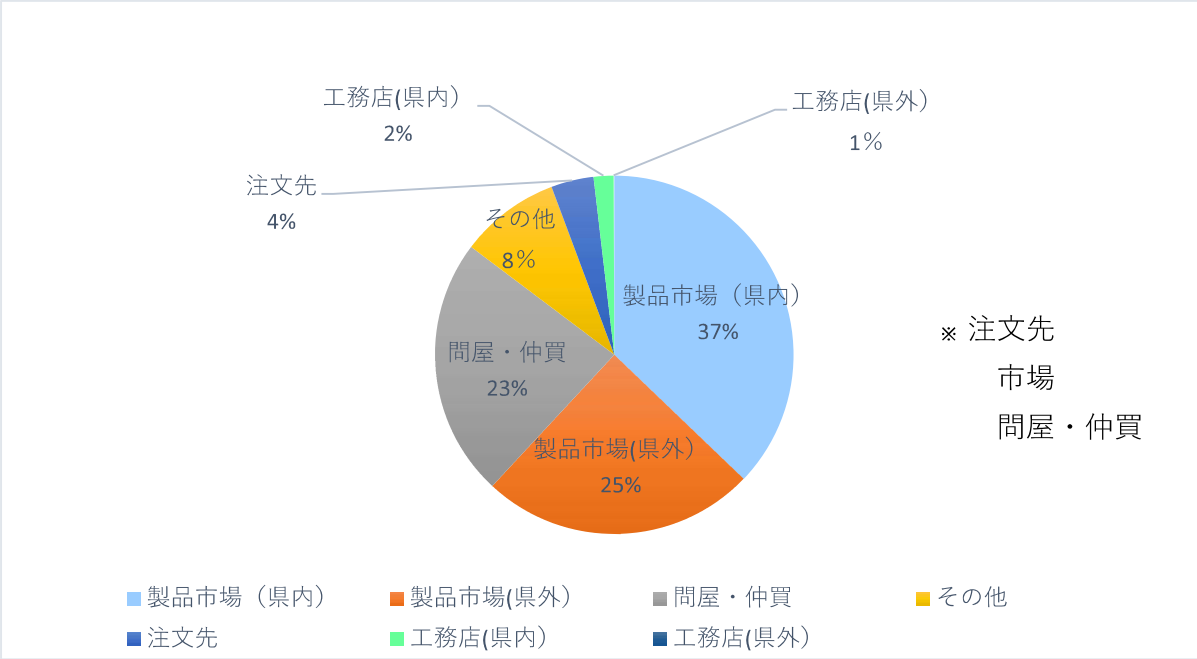


製品の販売先

【製材規模】
年間原木消費量 1,000～5,000 ㎥

◇ 内訳

製品市場(県内)	製品市場(県外)	問屋･仲買	その他	注文先	工務店(県内)	工務店(県外)	合計
8,918	5,938	5,603	2,168	922	427	17	23,993



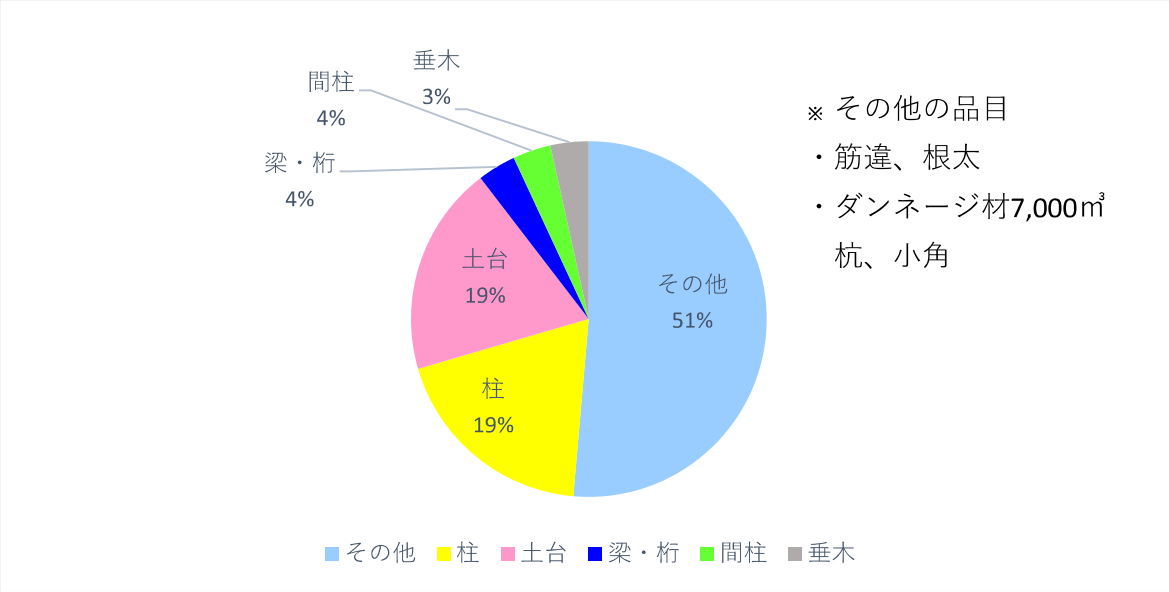
図― １８

製品の品目

【製材規模】
年間原木消費量 5,000～20,000 ㎥

◇ 内訳

その他	柱	土台	梁･桁	間柱	垂木	合計
14,800	5,500	5,500	1,000	1,000	1,000	28,800

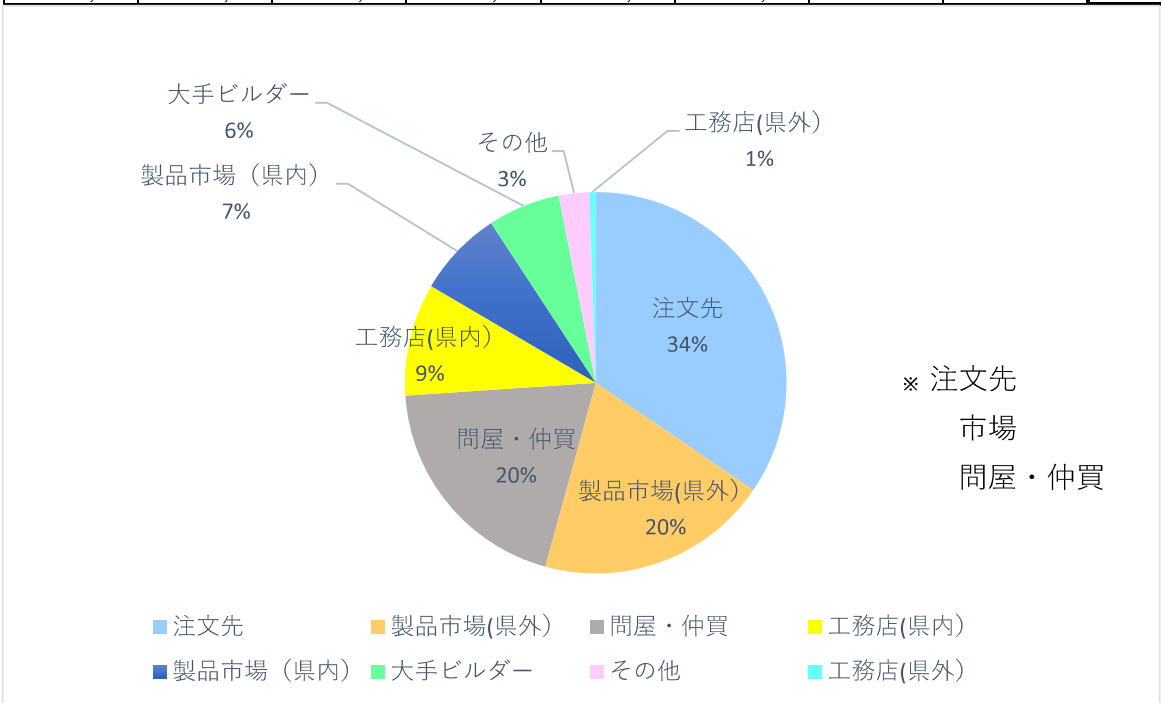


製品の販売先

【製材規模】
年間原木消費量 5,000～20,000 ㎥

◇ 内訳

注文先	製品市場(県外)	問屋･仲買	工務店(県内)	製品市場(県内)	大手ビルダー	その他	工務店(県外)	合計
9,310	5,331	5,303	2,565	1,976	1,655	696	140	26,976



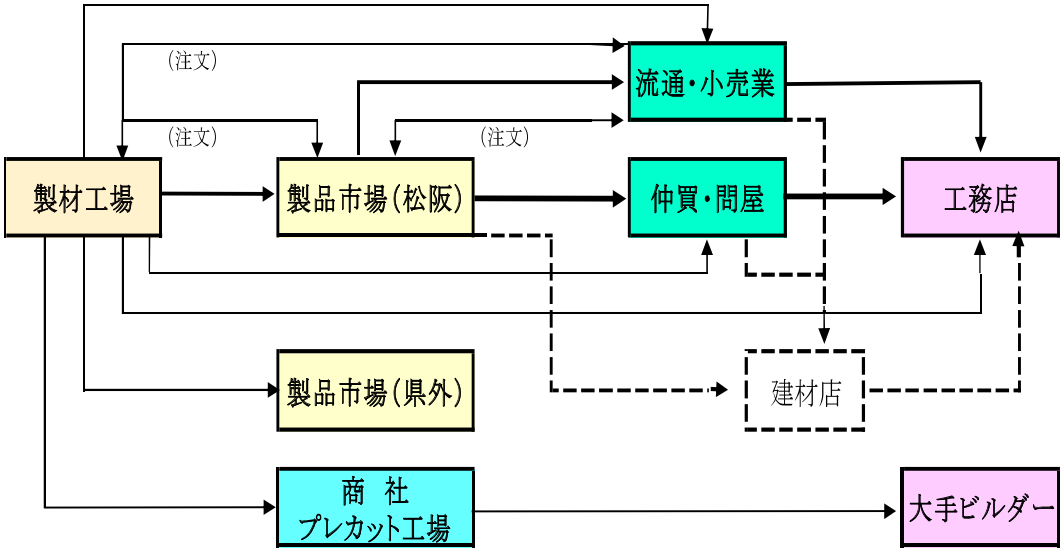
８　流通の形態

前項で製材工場の販売先（出荷先）を示したが、聞き取りによる当市における製品全体の流れをまとめてみると、比較的小規模な工務店・建築業者の製品調達は、木材販売業者である、仲買・問屋、小売業からの入荷であるが、流通ルートは、重層な構造となっている （図−19）。

また、全国的な流れとして、輸入材や集成材に加え、大型国産材製材工場の製品はプレカット工場を中心とする大規模な木材の流通経路が形成されていることが挙げられ、パワービルダーの存在がこれらの効率化を促している。

このようなことから、地域製材工場製品の販路は、年々厳しい状況に迫られている。

図— １９



表―7

松阪市製材工場等の生産状況調査票

事業所名								
代表者名								
住所	松阪市							
電話番号	0598 ― （　　） ―							
ご記入者名								
原木消費量	◆		m3	うち国産材 ★			m3	※ その他の内訳を記入下さい
				上記の内訳	ス ギ		m3	
					ヒノキ		m3	
					その他		m3	
				うち 外材			m3	
				計	◆		m3	◆ は同数にして下さい
原木購入先	原木市場		%	産 地	**三重県産**		m3又は%	※ その他の内訳をご記入下さい
	素材生産業者		%		愛知県産		m3又は%	
	森林組合（県内）		%		岐阜県産		m3又は%	
	（県外）		%		静岡県産		m3又は%	
	県森連（県外）		%		その他		m3又は%	
	その他		%				m3又は%	
			%				m3又は%	
	計	100	%		計	★	m3又は%	★ は同数にして下さい
製材品販売量	構造材		m3	● 品目と数量の内訳をできるだけ詳細にご記入ください。 例：（桁、柱、土台、ひき角、垂木、間柱、小割材など）				
	造作材		m3	[　　] m3 , [　　] m3				
	その他		m3	[　　] m3 , [　　] m3				
	計		m3	[　　] m3 , [　　] m3				
製品販売先	製品市場		%	左の内訳	県内		%	※ 販売先の製品市場・工務店名についてお教え頂ける範囲で具体的にご記入下さい（特に県外の行先）
					県外		%	
	工務店		%	左の内訳	県内		%	
					県外		%	
	大手ビルダー系		%	※ 販売先の大手ビルダー系名についてお教え頂ける範囲で具体的にご記入下さい				
	木材問屋・仲買等		%					
	注文先		%					
	その他		%	※ その他の内訳をご記入下さい				
	計	100	%					

※ 貴工場の経営上の課題や問題点、困っていることなど、どのようなことでも結構ですので、幾つかご記入下さい。

松阪市における製材工場調査報告書

調 査 主 体　松阪市産業文化部　林業振興課　林業支援センター
連　絡　先　松阪市笹川町 78 番地 1
電　　話　0598-36-8140
ファックス　0598-36-0680
Ｅ メ ー ル　rin.shien@city.matsusaka.mie.jp